# 岐阜農林事務所の普及活動状況　令和３年 11 月 30 日現在

## 今月の重点活動

### ■新規就農者　令和３年度岐阜地域農業担い手情報交換会開催

【新規就農者の事例発表】

岐阜農林事務所では、就農５年目未満の若手農業者と担い手リーダーの代表者等の先進的農業経営者及び関係機関が一堂に会し、相互に情報交換や交流を深めることによって、農業経営に役立つ人的ネットワークの構築を図ることを目的として農業担い手情報交換会を毎年開催している。

今年度は、11 月 16 日にＯＫＢふれあい会館において、コロナ禍により、人数制限を行って開催した。出席者は農業者、関係機関 36 名、農林事務所 19 名、計 55 名であった。

研修会では、初めに「清流の国ぎふ農業担い手証書」授与、新規就農者自己紹介を行い、その後、先輩の新規就農者の事例発表を行った。

さらに株式会社東海近畿クボタとネポン株式会社より農作業安全に関わる講演及び農業共済と農業会議より新規就農者に向けて情報提供され、出席した農業者は熱心に聴講するとともに、農業者同士で情報交換も行われた。

（地域支援第一係・山田　和彦）

### ■外来生物駆除　ジャンボタニシ被害防止対策チーム会議に参画

【チーム会議の様子】

ここ数年、田植直後の水田において南米からの外来生物であるスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害が目立っている。

岐阜県では、県庁関係課と出先機関及び学識経験者からなる被害防止チームを設置して、蔓延防止に向けた総合的な対策の実証や被害対策の啓発活動を行ってきた。11 月 1 日には対策チーム会議が開催された。当日は県機関職員、岐阜大学准教授など 14 名が出席し、今年度の被害動向と実証成果について検討した。管内では農業法人やＪＡぎふが実証主体となり、薬剤防除や水田の均平施工、石灰窒素入り基肥一発肥料などの実証に取り組んでおり、その成果について協議した。

岐阜県では令和４年度に「岐阜県版対策マニュアル」を作成することとしており、農業普及課もそれに向けて現地調査によりデータ収集を行う。

（地域支援第三係・松本　政行）

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■農林高校生　担い手リーダーによる出前講座実施

【出前講座の様子】

11 月 19 日に岐阜農林高校園芸科学科１年生を対象に各務原市でトマトを栽培する青年農業士が講師となり、出前講座を行った。

「わたしがなぜ農業を始めたか」というテーマで、講義が行われた。事前に生徒から受けていた質問に対し、非農家である講師が農業を始めようとしたきっかけや農産物を使ったパーラーやバーガーなどの飲食店を展開するに至った経緯などを語った。

最後に、自分の経験を通し、生徒へ「まだ自分の知らないことが沢山ある。海外、県外、とにかく外の世界を見てみる」ようにとメッセージが送られた。

次回は、流通科学科の生徒を対象に、水稲・柿農家の講義を実施する。

（地域支援第一係・山田　和彦）

■女性農業経営アドバイザー　オンライン研修に参加

【オンライン研修風景】

11月11日、GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロックでは第３回県研修会および第３回ブロック全体会議をＯＫＢふれあい会館で開催した。

研修会では、メインパネリストに昨年退任された女性農業経営アドバイザーを迎え、経営者としての雇用への取組や、衛生管理などを題材にオンラインでパネルディスカッションが行われた。具体的な取り組みを気兼ねなく質問することができ、出席者も「なるほど」と経営の参考にしたいと話していた。

ブロック全体会議では、本年度の12月に開催予定の研修会と広報の編集方法について検討を行った。10名の会員が出席し近況などの情報交換も積極的に行われた。今後も自主的なアドバイザーの活動を支援していく。

（園芸産地支援第一係・横田　京子）

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

■にんじん（各務原市）　冬にんじんの収穫始まる

【収穫されたにんじん】

11月12日から各務原にんじんの収穫が始まった。

今年は８月の盆前後に長雨が続いたものの、その後は降雨が少なく、また、気温もかなり高かったため、生育順調で、品質の良いものが穫れている。

収穫は12月まで続くが、農業普及課では、栽培終了後、次作の春夏にんじんに向けての管理などの指導を行っていく。

（地域支援第二係・水川　誠）

■さといも（各務原市）　さといも出荷始まる

【出荷説明会の様子】

各務原市園芸振興会さといも部会では、11 月 15 日にＪＡぎふ各務原集荷予冷施設において出荷説明会を開催し、生産者 12 名、市場、ＪＡの担当者が出席した。

本年のさといもは、干ばつや長雨に見まわれたものの、秋が暖かかったことで、ダツが遅くまで残っており、昨年よりも大きいさといもが穫れると見込まれている。

ＪＡ担当者から出荷説明・確認等の後、農業普及課から、収穫、貯蔵について説明した。

農業普及課では、さといもの高品質・安定生産に向け、今後も支援を継続する。

（地域支援第二係・水川　誠）

■小麦　播種作業が順調に進む

【自動操舵での播種作業】

管内では農業法人や大規模農家が稲刈後の水田を活用して約 450ha で、準硬質小麦「タマイズミ」を主として栽培している。10 月 30 日から播種が始まり 11 月上旬に作業ピークを迎えた。今年は 10 月末～11 月中旬に雨が少なく、播種作業が捗り、発芽も良好であった。

農業普及課では栽培暦の作成や個別面談による排水対策・適期播種を指導した。今後、各地に生育調査ほを設け生育経過を把握するとともに雑草対策や施肥管理について指導し、安定生産を図っていく。

また、11 月 15 日には、羽島市で JA ぎふが設置された RTK 基地局の補正電波を利用したトラクターの自動操舵による播種試験が実施された。機械作業が不慣れな人でも高精度の作業が可能で、オペレーターの負担を軽減できることが明された。

（地域支援第二係・木村裕子、地域支援第三係・松本　政行）

■カキ　各産地において富有の出荷始まる。

11 月に入り、カキの主力品種である富有の出荷が各産地とも本格的となった。本年は、長雨や干ばつなど厳しい気象条件のなかでの栽培であったが、着色開始や後期果実肥大は順調にみられ、果実は高糖度なものとなっている。出荷の最盛期は 11 月下旬であり、12 月上旬まで続く見込みである。

農業普及課では生育状況調査を実施し、今年度の生育状況について関係機関との連携を図った。

【選果場の様子】

（園芸産地支援第二係　小枝俊仁、杉浦真由）

■いちご　令和３年産いちごの出荷始まる。～目揃え会の開催～

11 月 9 日の本巣いちご部会を皮切りに各生産部会で出荷目揃え会が開催された。本年は既に 10 月 18 日より出荷が始まっており、例年にない早い時期からの出荷となっている。日中の温度が高く、果実の着色が進みやすいことから過熟果とならない様に注意喚起があった。

今作は、頂花房の異常な早期出蕾や腋花房分化の乱れから厳寒期に草勢低下する可能性が高い。栽培講習では、着果負担が大きい場合には負担軽減のための栽培管理を徹底する様にと説明を行った。

令和３年作の出荷はこれから約７ヶ月続く。「岐阜いちご」の安定生産、出荷に向けて支援を行っていく。

【目揃え会の様子】

（園芸産地支援第二係・菊井裕人、若原浩司）

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

■花き　岐阜ハウジングギャラリーにおいて県産花きＰＲイベント

ぎふ花と緑の振興コンソーシアムの主催により、花業界と住宅メーカーが連携し、花を取り入れた生活を提案するイベント「夢ふくらむ暮らしにフラワーギフト」が11月３日に岐阜ハウジングギャラリー県庁前にて開催された。

岐阜管内からは生産者３戸が参加し、モデルハウス内でインテリアとして装飾を施した花を展示したり、即売会を行った。生産者はモデルハウス内の展示に立ち会い、インテリアに合う商品のイメージを膨らませ、新しい商品提案につなげる機会となった。

今後も他業種との連携によって、花の新しい需要創出につなげられるよう支援していく。

【花の即売会】

（園芸産地支援第一係・白木愛）

## 地域資源を活かした農村づくり

■自然薯　目揃え会を開催

11 月 10 日にＪＡぎふ根尾支店において、根尾特産振興会自然薯部会目揃え会が開催された。当日は５名の会員が集まり、生育状況や出荷規格を確認するとともに、今年度の価格など動向を確認した。

収穫は今後 12 月にかけて行われ、Ａ品の自然薯についてはお歳暮用としてインターネットでも販売される。

部会では「ぎふクリーン農業表示制度」が終了する令和６年３月まで表示を継続する予定で、農業普及課からは、収穫・貯蔵について情報提供するとともに、基準に基づいた栽培を実施するよう指導を行っていく。

【目揃会の様子】

（地域支援第三係・熊﨑　真由）